



—いのち、くらし、平和が大事！—
日本共産党京都市議会議員

山本 陽子

活動ニュース



VOL.94
2022年6月5日号

〈連絡先〉
日本共産党
山科区生活相談所
山科区西野大手先 8-8
☎ 595-8342

5月議会の焦点

①健康増進センター・ヘルスピア21の廃止はやめよ！



山科では〈ラクトスポーツプラザ〉の再開が求められています。いっぽうで、南区では〈健康増進センターヘルスピア21〉を廃止することが提案されています。

プール、ジム、運動教室など充実した施設、低廉な利用料金、障害のある方にも利用しやすく、多くの方が利用できる市民の公共施設は、一度作られたら簡単に休止できない、廃止できない市民の具体的権利です。これを皮切りきに公共の役割後退が一気に進みかねません。

山科でも、他の地域も、他人ごとではないと思います。ヘル

スピア21を廃止するな！とすでに5000近くの署名が集まっているそうです。私たちも声をあげましょう！

②ポイント還元の乗継割引は市民サービスの後退！

昨年10月に廃止されたトラフィカ京カード、1日乗車券の値上げなど、公共交通にかかわる市バス地下鉄の市民サービスの後退が進められてきました。それに代わるサービス、とうたわれた乗継割引のポイント還元。他にも公共交通にかかわるデジタル化の補正予算が京都市交通局に3億3200万円、民間バス事業者に1億1400万円で、提案されました。

この点、乗継割引ポイント還元が適用されるのはICOCA、PiTaPaのICカード利用者のみで、かつカード番号の登録手続きをした人。さらに1ヵ月3600円以上乗車

した人に、翌月乗継割引相当分のポイント還元をするものです。利用者の率で言うと3600円以上の利用は5割程度という想定ですが、そもそも乗り継ぎ利用は全体の5%ですから、結果的に2.5%の利用にしか恩恵はありません。これでは利用者増にもつながらない！

一方、民間公共交通事業者さんはコスト負担も厳しいと、補助金を受ける事業者は8社中、京都バスとJR西日本バスの2社だけというではありませんか。市民の足を守るためには、減便や路線廃止、廃業の危機に立たされている公共交通事業者への減収補てんこそ必要だと問題点を訴えました。

③コロナ禍で高齢者の入院制限になりはしないか？

コロナ対策について、【高齢者・障害者施設内療養者に対する往診体制の強化や治療等に対する協力金の支給】に2億5500万円の補正予算が提案されました。第6波の前には原則入院の方針を掲げて900床の一般病床を増床していましたが、一般病床もひっ迫する事態に。国が医療機関のベッド数に限りがあるとして、施設療養者への医療供給体制をとるよう指示したのを受けて、施設内の高齢者・障害者の状態に応じて必ずしも入院としないこと、本人・家族が入院を希望していても入院基準を満たすかを入院コントロールセンターが判断し、高齢者施設内での医療提供もすすめていくと言います。

しかし、高齢者・障害者のコロナ感染者が病院から遠ざけられるのではないかと高齢者施設での医療の提供には、人員や施設環境から限界があるのではないかと懸念されます。必要な医療は医療機関で受けさせよと求めています。

つくづく、医療も暮らしも
守ってくれる国の政治にしなければ！
参議院選挙は、間近です！

ママチャリ子育て日記

私の身体は私のもの

友達であっても、自分の身体をベタベタと他人に触られるのはイヤだと。「触るなよ！」と言っても、子ども同士、なかなか真剣に聞いてもらえないこともあるのでしよう。触られるのがイヤだと息子が私に話してくれました。「自分の身体は自分のものなんだから、いくら友達でもイヤなもののはイヤだと言っているんだよ」と言うと、落ち着いてくれました。

ちょうど次の日がプール掃除で、今年初めて水着を着て作業する日だったので、身体を触られていることがおさらい気になっていたのでしよう。これは、親として求められた大切なタイミング。翌日、すぐに先生に電話をして、子ども達みんなに大切な自分の身体の話をしてほしいとお願ひしました。先生はすぐに、作業の前にクラスで話をしてくれました。

友達同士では解決できないこと、つらいこと、大人の力を貸してほしい、助けてほしい、と子どもは思っています。「イヤなこと」を報告できるアンケートって一年に一回くらいしかないけど、毎月くらいあってほしい。でないと、そのアンケートまで我慢しなアカらん」とも言います。子どもを守る大切な提案だと思えます。

